

# 資源管理基礎調査（海洋環境）

## 浅海定線観測

（要約）

高坂 祐樹・小泉 広明

### 目 的

陸奥湾の海況の特徴や経年変動などを把握し、海況予報のための基礎資料を得るために、昭和47年度から実施している。なお、本報告は平成24年1月から12月までの調査結果をとりまとめた。

### 材料と方法

#### 1 調査船

なつどまり（24トン、770ps、16.5ノット）

#### 2 調査点

陸奥湾内の8点(図1)。

#### 3 調査方法及び項目

調査方法は、平成23年度「資源評価調査事業」沖合海域海洋観測及び資源管理体制強化実施推進事業に関わる海洋観測調査指針(東北ブロック関係・平成23年4月・独立行政法人水産総合研究センター東北区水産研究所)に準拠した。

調査項目は以下のとおり。

##### ① 海上気象

天気、雲量、気温、気圧、風向、風力、波浪

##### ② 水色、透明度

##### ③ 水温、塩分

0m層、5m層、10m層、10m以深は10m毎の各層と底層(海底上2m)

##### ④ 溶存酸素

St. 1～6の20m層と底層(海底上2m)及びSt. 2、4の5m層

#### 4 調査回数

平成24年中に毎月1回、計11回実施（11月は欠測）

調査期日は次のとおり。

平成24年1月17日・19日、2月6日・7日、3月13日・14日、4月18日・19日、5月9日・10日、6月26日・27日、7月3日・4日、8月6日・7日、9月3日・4日、10月2日・3日、12月11日・12日・13日・14日

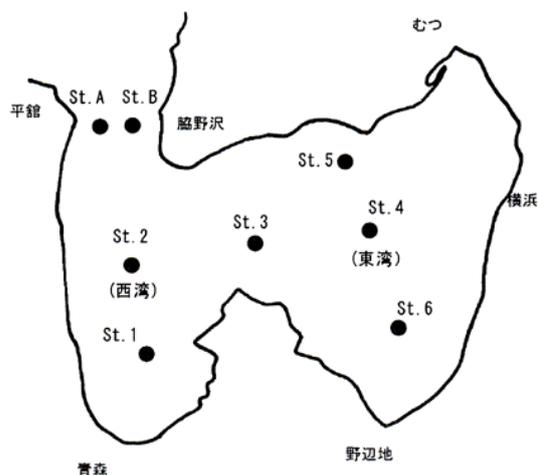


図1 調査点

## 結 果

平成24年における陸奥湾の海況の特徴は以下のとおり。

- 1 透明度の全調査点の最高値は8月のSt. Aの23m、最低値は12月のSt. 3の10mであった。
- 2 水温の年間の推移は平年に比べ、7月までは低め基調で調査が下旬となった6月を除いてはなほだ低めの値も見られた。9月からは一転して高めの傾向が強くなり、9、10月ではなほだ高めの値が観測された。12月は平年並みからやや低めに落ち着いた。

水温の全調査点の最高値は9月のSt. 1の0m層で27.1℃、最低値は3月のSt. 6の10m層で2.90℃であった。

- 3 塩分の年間の推移は平年に比べ、1～5月までは全湾で低め基調で、2月を除きはなほだ低めの値が観測された。7～10月は観測点や層によってバラツキはあるものの概ね平年並みからかなり高めで推移し、12月は平年並みとなった。

塩分の最高値は10月のSt. Aの50m層及び底層で34.309、最低値は4月のSt. 2の0m層で30.726であった。

- 4 溶存酸素量の全調査点の最高値は、3月のSt. 6の20m層で10.79mg/L、最低値は10月のSt. 6の底層で4.11mg/Lであった。

溶存酸素飽和度の全調査点の最高値は、10月のSt. 3の20m層で109.76%、最低値は9月のSt. 4の底層で55.36%であった。